

4. 記録で確認できる天守の修理歴

寛永 15 年 (1638) この頃、松江城天守修復、天守雛形 (模型) 作成？

(竹内家由緒書、藩祖御事蹟)

正保 2 年 (1645) この頃、「出雲国松江城絵図」(正保城絵図) 作成

延宝 2 年 (1672) この年、「出雲国松江城之絵図」作成 (石垣修理願い幕府に提出)

元禄 1 1 年 (1698) この頃「松江城縄張図」作成される？

元禄 1 3 年 (1700) この頃、天守の北側張出棟破風の修理 (天守墨書記録)

宝永 4 年 (1707) この頃、天守附櫓の屋根修理 (天守墨書記録)

享保 3 年 (1718) この年、斎田彦四郎、天守小形を拵える。「御天守小形拵差上付而為御褒美二百疋被下之」(松江藩列士録／斎田彦四郎)

享保 4 年 (1719) この頃、天守の水改めが行なわれる (天守墨書)。また、天守内の柱に包板が添えられる (天守墨書)

享保 5 年 (1720) この頃、斎田彦四郎「御状内分限絵図」を作成。「3 月 御城内分限絵図被仰付出来差上付而同八月御褒美二百疋被下之」(松江藩列士録・斎田彦四郎)

元文 2 年 (1737) この年、天守の修理が行われる (天守墨書)

元文 3 年 (1738) この年、天守の本格的な修理が行なわれる？

「天守年テ遂テ損スルコト致シ五層皆朽ルニ至ル故ニ斬ニ之ヲ修ム」(6 代宗衍年譜)

元文 4 年 (1738) この年、天守四重の屋根を修理 (天守墨書)

表面「御奉行竹内左助 大工メ杉谷徳兵衛 御大工斎田彦四郎 元メ佐野治助 四月九日棟梁立川孫兵衛、村木忠兵衛」、**裏面**「元文四乙未四月九日に此角木出来仕上ル大工 山門磯 □□□ 広瀬新左エ門 笠井平次 神田徳左衛門」

寛保 元年 (1741) この年、天守三重の屋根を修理 (天守墨書)

寛保 2 年 (1742) この年、天守三・四重の屋根を修理 (墨書)

寛保 3 年 (1743) この年、天守四重の屋根を修理 (天守墨書)、天守修理はひとまず完了か？

「(寛保 3 年) 8 月 18 日 御天守御修復御用出精付而為御褒美御帷子一銀五枚被下之」(列士録／竹内佐助)

《参考資料》「初期松江城天守の形態に関する試論」掲載「松江城天守修理年表」(松江市史研究 8 号、P.18)

天守 4 層隅木の墨書



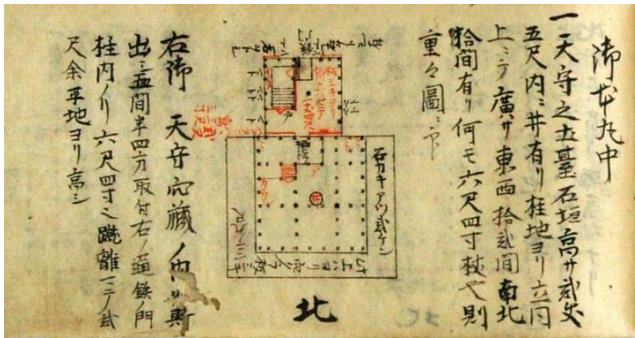
表面



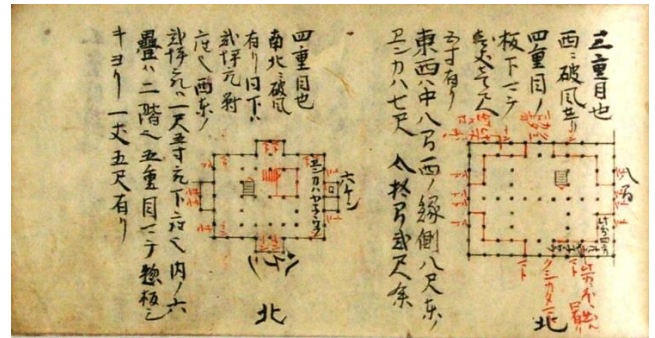
裏面

5. 文献史料に見る松江城

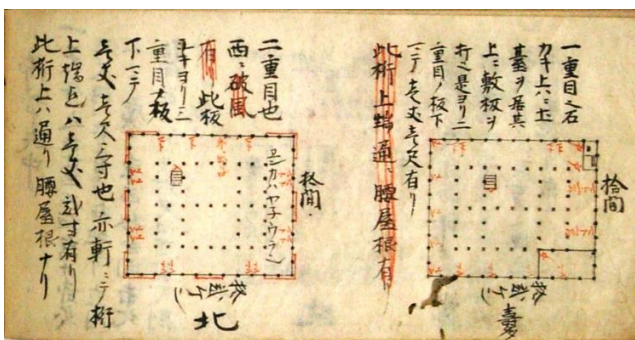
「竹内右兵衛書つけ」の天守図。「見せ消ち」の意味〔天守の修復（模様替え）を示唆?〕



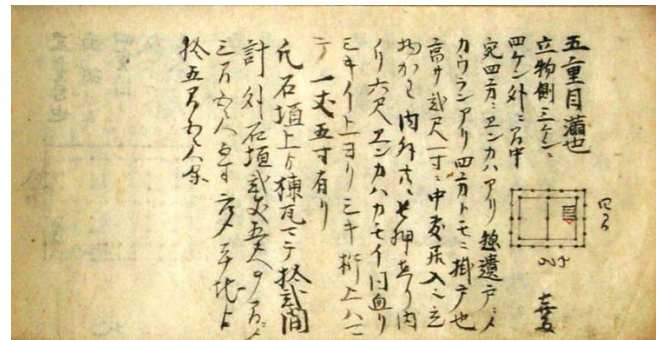
天守地階



天守三・四重



天守一・二重



天守五重

竹内家由緒書 「高眞院様寛永十五戊寅年月日不知被召出御大工頭被仰付米百俵拾人扶持被下之乙部九郎兵衛ニ附従ヒ御国江罷越御天守ニ三尺余之高下有之旨申出候ニ付修復被仰付其の節修造方工風之為御天守雛形製造致候由右天守雛形者御月見之櫓下ニ御納ニ相成御代々様御天守御登之節御覽被為在候格合之由
明治三庚午年月日不詳八代目竹内有兵衛ヨリ廢藩之廉雛形奉願被下ニ相成

同号二十年三月十五日樂山神社奉納仕候

十代目

竹内平太郎」

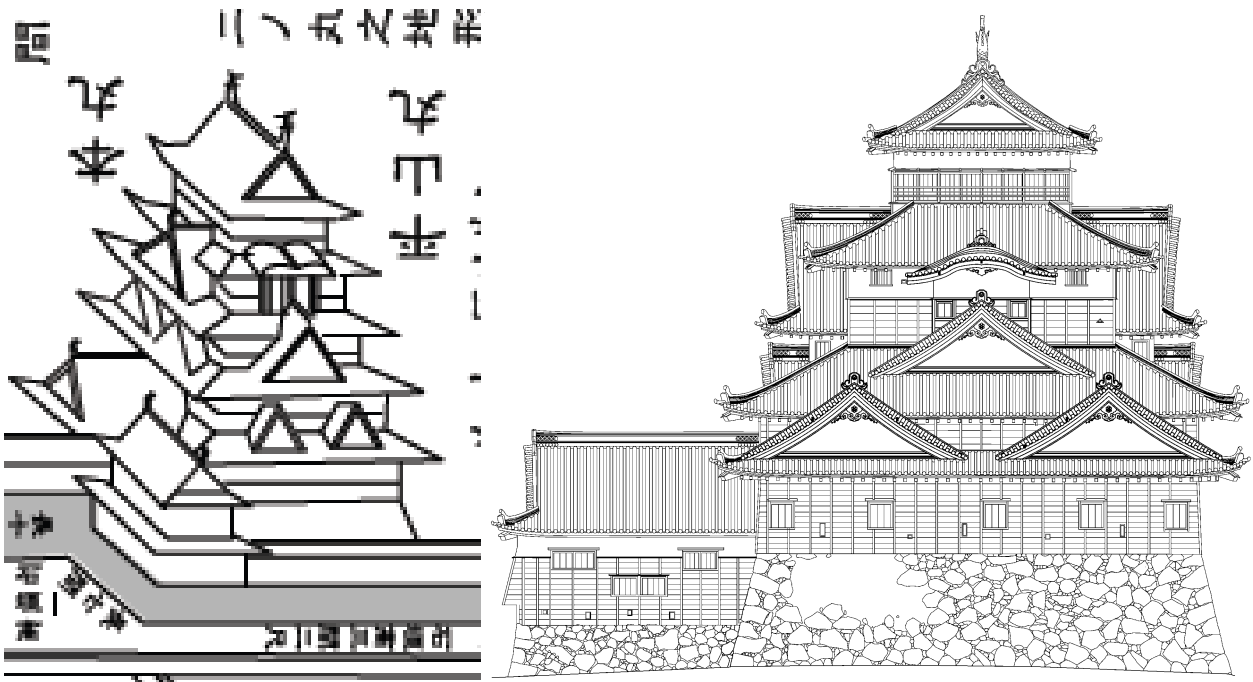
藩祖御事蹟 「竹内有兵衛トイウハ名匠ノ聞エアル者ニテ越前大野ニ在マセシ時ヨリ御出入イタシ出雲へ御入国ノ時ニ士列に召出サレタル者ナル御入国ノ時乙部可正ニ従ヒ御待受ノ為ニ御先ニ来レルカ御殿前ヨリ遙ニ天守ヲ見アケ南ノ方幾尺幾寸傾ケリトイヘリ其事御聴ニ達シ御シラヘアリケレハ果シテ違ハスソレヨリ天主ノ御修復ヲ命セラレシカハ有兵衛先ツ天主ノ雛形ヲ作りテ御修復ニ取懸リ遂ニ思フ如クニ功ヲ成セリ其雛形ハ今ニノ丸ニ蔵セラル三ノ丸前ノ辻番モ有兵衛力作ニテ比類稀ナルトフ（後略）」

千鳥城の呼称

①「千鳥城古立之古説」の「千鳥城」。②「雲陽大数録」には「城名亀田山千鳥城」と記載。③「出雲私史」には「地を亀田山といひ、城を千鳥城といふ。皆旧地名に依れるなり」と記載。

「天守の構造と表現」（『城郭史から見た 松江城天守と昭和の修理』第4章3）にも「松江城はその雅名を千鳥城と呼ばれるが、千鳥と云うのは何時の頃から呼ばれたものか明確な文献を欠いているが『雲陽大数録』（明暦年間頃）に「亀田山千鳥城」と記載されているから或は築城当初からかく呼称されたものならんか。」と記載されている。

6. 初期松江城天守の復原図的検討



「出雲国松江城絵図」の天守写し

東復原立面図（金沢雄記(米子工業高等専門学校准教授)作図）

（ここでは）現存する松江城天守と「正保城絵図」に描かれた天守を比較し、柱の痕跡から創建当初の天守には初重腰屋根の比翼千鳥破風と、四階唐破風出窓が存在した可能性を指摘した。また元文から寛保にかけて天守が大がかりな修復を受けていることから、おそらくこの時期に現在の姿になったこと、また現在松江歴史館に保存されている天守雛形はこの修復時に合わせて作成されたものではないかということを推察した。

7. まとめに变えて（今後の課題）

《今後の課題》次に記す項目などについてはさらに探究されなければならない。

- ・ 松江城が「千鳥城」と称される由来は、その根拠？
- ・ 「出雲国松江城絵図」の天守図はどこまで性格に描かれたものか？
- ・ 「竹内右兵衛書つけ」の見せ消ちの意味？
- ・ 「松江城天守雛形」の製作時期、製作目的は？また、製作者は誰か？
- ・ 修理記録及び天守雛形、城絵図などの史料の精査はさらに必要である。

今回は、現存天守が1740年頃（修理後）の姿を伝えるものであると推察し、その復原を試みたが、松江城天守が、慶長15年創建であることは間違いなく、通し柱や包板による天守構造は松江城天守独特のものであり、松江城天守の価値は不変である。

おわりに 着々と進む松江市での調査研究の流れ

(1) 松江城天守国宝指定に至る3つの土台

その1

- ・市長マニフェストで国宝化運動を発表、『松江城を国宝にする市民の会』発足（平成21年）
- ・松江城国宝化推進室の設置と『松江城調査研究委員会』の発足（平成22年）
- ☞西和夫氏らによる調査・研究 →特徴的な建築構造の解明
- ☞市民の会による署名活動(12万8千)→近藤誠一文化庁長官のアドバイス→新たな知見
- ☞「お願い」から学術的な成果を目指す姿勢に転換

その2

- ・史料編纂室の設置と『松江市史編纂事業』の開始（平成21年）
- ☞10年計画の「市史編纂事業」に伴う体系的な史料調査の開始 →祈祷札の再発見
- ☞150人の松江市史執筆体制 →松江の歴史を解明する全国的な調査・研究体制

その3

- ・松江歴史館の開館（平成23年）
- ☞充実した史料の保存環境、調査→研究→展示の基盤

(2) 松江市史編纂事業による歴史史料の蓄積と総合的な歴史研究

- ①松江市域の歴史に関する調査研究が多く、研究者と連携して進められている。
- ②全国に視野を広げた調査により、松江市域に関わる考古学資料、古代・中世の文献史料、絵図・地図資料などを網羅的にまとめることが出来、歴史研究の基礎が整ってきた。
- ③「松江市ふるさと文庫」、「松江市歴史叢書」、「松江城調査研究収録」などで、短期間のうちに松江の歴史を解明する200本を超える研究論文や報告が発表されている。
- ④松江市域の最大の特徴は、古代から現代にいたるまで、出雲地域、島根県の政治権力の中枢が置かれた場所ということであり、驚くほどの貴重な歴史史料が残されている。
- ⑤引き続き、地域に埋もれている貴重な史料や、松江市保管の歴史的公文書など、松江市域の歴史史料の調査・研究を引き続き進めることが大切。
- ⑥今後とも、市民の皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後に

松江市史別編 『松江城』平成30年3月刊行予定

(予告) 松江市史講座 118講（平成30年3月24日）

「松江城をめぐる諸問題と今後の展望」一松江市史別編 「松江城」の出版に併せて一

ありがとうございました。